

東京陵水

暑中御見舞
陵水会東京支部役員一同

平成二十年度東京支部総会

画期的な大総会、陵水人百六十名が集う。
同期会形式の呼びかけが成功

平成二十年五月二十一日（水）午後六時から、港区元赤坂二丁目二十三、都内有数の伝統ある会館、明治記念館「富士の間」において、本年度東京支部総会が会員約百六十名と近年にない多くの出席者を迎えて開催された。今回の開催、運営には大学二十回卒業生が当番幹事として当った。

司会を加藤博善幹事長（大14）が担当。守谷貞夫副支部長（大12）の開会の宣言から開始された。西坂徹雄支部長（大9）の挨拶（別記）の後、総会に入る。議長に箸方海三氏（大4）を選び議事に進んだ。

平成十九年度事業報告並びに収支決算が、山本保副幹事長兼事務局長から報告。監査報告を高木早苗監事（本24）が、十九

年度の財務目録、収支計算書とも正當に処理されたことを報告、全出席者の確認と承認を得た。続いて平成二十年度事業計画及び収支予算計画について、同副幹事長から積極的な予算を組んだため繰越金が減少するとの報告あり、承認された。

講演会は六時三十分から開始された。講師の紹介を加藤幹事長が行い、直ちに山崎一真教授の講演「母校と彦根の時のデザイン」が進行した。プロジェクト画面に、母校の草創期や当時の彦根の街の珍しい写真などが映され、これをつなぎながら母校の歴史と彦根市との文化的歴史的背景が語られた。

講演の終了後、昨年の参議院議員選挙で京都府から立候補（自民党）、当選した西田昌司参

議院議員（大29）が来席していることが告げられ、紹介の後、挨拶があった。

午後七時四十分頃から懇親会が、蔵彰当番幹事の司会により開会された。「総会で同期会」のコンセプトによりテーブルにそれぞれの年次同期生がまとまって座に着く。座席の様子では六回生十人の参加をはじめとして、各回ごとのまとまった人数の参加が目立ち、始まる前から同期会の雰囲気が出ている。同じテーブルで同期会を

のPRが効を奏したともいえる。今まで出席を見なかった大学年次からも、互いに同期を誘って出席している姿が見られた。今後の総会の盛り上がりにつながるだろう。

乾杯の発声を、山崎一真教授にお願した。

目次	
1	面 平成二十年度支部総会
3	面 二十年総会に出席し思うこと
4	面 特別講演
6	面 「こんにちば」
12	面 随想「湖東では…」
13	面 ゴルフ談義
14	面 囲碁会だより・大志会
15	面 東京五陵会
16	面 大学十八回卒同期会・
17	面 白杉会
18	面 有田会
19	面 彦根コンフィデンシャル
20	面 支部年会費納入者



全員で盛会を祝う



開会を前に



学歌斉唱



抽選会の司会



宴もたけなわ

テーブルには女性会員が中心に
いる。西田参議院議員と机を並
べた上田女史が旧交を温めての
話に花が咲いている。今年度新
入会員の男子二名女子一名が紹
介され挨拶をした。女性出席者
今までで最多の四名が引き続き
登壇、賑やかな歓迎の拍手を受
けて自己紹介と挨拶をした。

西坂徹雄東京支部長挨拶(要旨)

ここ数年、総会は百名前後の
集まりだった。今年は百五十名
の方に集まってもらおうと二十
回生、ヨット部などクラブの卒
業生、各期の幹事の協力により
百六十一名の参加を得ること
になった。女性も四名参加して
いる。このような参加に感謝す
る。執行部としてはまず総会に多
くの人に参加する、これを盛り上
げ、数の力で東京陵水会の活動
を広めてゆき、最終的にはこの
力を大学の支援のために、また
本部の手助けのために持つてゆ
きたい。数をメインの活動がさ
らに数を生む循環になればと思
う。機関紙「東京陵水」は二千
人に送っている。このうち一割
参加でも二百人になる。これか
らは二百人を目指して頑張った
く支援をお願いする。総会は会
員一人一人のもので、今日参加
した一人一人が参加して楽しか
った、来年も出席したいという
気持ちにならないといけない。
今年度の二十回生の幹事は非常
に準備万端いろいろ整えてくれ
た。その結果楽しい懇親会が期

待できる。山崎先生の彦根の話
がどのような話になるか期待さ
れている。これから三時間、参
加者皆さんが飲み語り、一人一
人自ら楽しんでほしい。
連絡事項。東京支部の事務所
は今まで通り守谷輸送機の事務
所を使わしていただく。
大学教育研究基金の募金は、
まだ道半ばである。東京は二百
人から七百七十六万の寄付があ
った。支部は努力を重ねるが、
提出された方に感謝している。
二十回生十七人が現役ながら
今日は休暇を取って準備を頂い
た。サントリーなど会員の関係
先企業から抽選会への支援を頂
いている。またフェニックス・
インターナショナル社の長ヶ部
良一さん(大20)からも抽選会
の景品に良いものを多く出して
もらった。
四回生の福島吉治氏が春の叙
勲で旭日中綬章を受章された。
我々陵水会の喜びであり四回生
の祝賀会には花を贈るつもり。
母校からの政治家としては宇



(3ページ五段へ続く)

平成十九年度収支報告

本部活動助成金収入

○財産目録(単位円・以下同じ)
現金 三、〇四六
普通預金 四三一、二二三
郵便貯金 四五六、一四〇
定期預金 一、〇六〇、〇〇〇
合計 一、九五〇、四〇九

平成二十年度収支予算書

○貸借対照表
【借方】
現金・預金 八九〇、四〇九
基本金引当預金 一、〇六〇、〇〇〇
合計 一、九五〇、四〇九

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

【収入の部】
計 四、七〇二、〇〇九
年会費収入 一、三三九、〇〇〇
総会負担金収入 七五六、〇〇〇
臨時会費負担金収入(役員会) 三七五、〇〇〇

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

【収入の部】
計 四、七〇二、〇〇九
年会費収入 一、三三九、〇〇〇
総会負担金収入 七五六、〇〇〇
臨時会費負担金収入(役員会) 三七五、〇〇〇

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

【収入の部】
計 四、七〇二、〇〇九
年会費収入 一、三三九、〇〇〇
総会負担金収入 七五六、〇〇〇
臨時会費負担金収入(役員会) 三七五、〇〇〇

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

【収入の部】
計 四、七〇二、〇〇九
年会費収入 一、三三九、〇〇〇
総会負担金収入 七五六、〇〇〇
臨時会費負担金収入(役員会) 三七五、〇〇〇

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

【収入の部】
計 四、七〇二、〇〇九
年会費収入 一、三三九、〇〇〇
総会負担金収入 七五六、〇〇〇
臨時会費負担金収入(役員会) 三七五、〇〇〇

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

【収入の部】
計 四、七〇二、〇〇九
年会費収入 一、三三九、〇〇〇
総会負担金収入 七五六、〇〇〇
臨時会費負担金収入(役員会) 三七五、〇〇〇

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

【収入の部】
計 四、七〇二、〇〇九
年会費収入 一、三三九、〇〇〇
総会負担金収入 七五六、〇〇〇
臨時会費負担金収入(役員会) 三七五、〇〇〇

【貸方】
基本金 一、〇六〇、〇〇〇
次年度繰越金 八九〇、四〇九
合計 一、九五〇、四〇九

○収支計算書
【支出の部】
計 四、七〇二、〇〇九
総会費 一、三三四、三三五
運営費 六一八、九〇四
印刷費 五六七、八〇五
通信費 六九二、二七六
その他 五二七、五九〇
次年度繰越金 九六一、〇七九

二十年度総会に出席し思うこと

●上田（大西）信子（大29）

滋賀大学を卒業してずいぶん年月が経ってしまいました。四年間京都から彦根に通い、なつかしい滋賀大のキャンパス、彦根の街を時折思い出すことはあってもなかなか訪れる機会もなく、今はずいぶん変わってしまったことだろうなと思っていました。同期の女性は人数が少なく結束が強かったせいか、幸いなことに今でも仲良くさせていただいています。夫は滋賀大の一年上の先輩で、どこに住もうが家庭ではお互い関西弁です。

ただ、他の卒業生と会うチャンスはなかなかありませんでした。陵水会総会の案内は毎年いただいていたのですが、知らない人ばかりで寂しい思いをするのもなあ、とこれまで参加に二の足を踏んでおりました。今回が初参加となりました。

総会では女性会員の自己紹介があり、私は夫の海外駐在に行きしてドイツ、オランダに約十年住んでおり五年前に帰国したこと、結婚前に取得した税理士資格を生かそうと今は税理士をしていることを話しました。

このような話しを皆さんの前ですることができたおかげで、自分もオランダに住んでいました、ドイツで仕事をしていたし、たという諸先輩方とあとで楽しくお話しできました。また、税理士を開業されている先輩方ともお会いできました。皆様の生き生きと頑張っておられる姿を感じました。今回は私一人の参加だったので家に帰って夫に話すと、さすが滋賀大、女性が少ないおかげで自己紹介の機会をもらえてよかったねと言っておりました。

総会では何十年も顔を見ていなかったなつかしい方々と会うこともできました。話していることはあの大学時代に戻ったようだったと心から思いました。私とお話ししてくださった皆様、ありがとうございます。

最後になりましたがご多忙にもかかわらず何度も話し合いを重ねられ、当日はお仕事を休んで準備された幹部・幹事の方々のご尽力に感謝しております。

●戸田有香（大55）

今回初めて陵水会東京支部総会に参加させていただき、昨年は参加できず残念に思っていましたので、今年参加で

きて嬉しかったです。念願の初参加ということで、緊張しつつ会場に向かいました。

知らない先輩方のなかで、最初は少し不安に思っていました。しかし気さくな先輩方ばかりで不安はすぐに消え、楽しい時間となりました。同じテーブルに着いていた方々に同年代が多かったのも良かったのかもしれない。参加者の名簿を見ると同じ部活に入っていた先輩も何人かいらつしやり、当時の様子など聞いたりしました。大学自体も変化していますので、現在と違うことを聞くのはとても面白く、興味深かったです。また、今も昔も変わらない話題では大いに盛り上がりました。講演会や尺八、ビンゴ大会など内



右から後藤・上田・戸田・杉田のみなさん

容も充実していて、本当にあつという間の支部総会でした。ビンゴはなんと当選し、嬉しいサプライズでした。

ただ一つ残念なのは女性が少ないということでした。今年は私を含めて四人いましたが、これは多い方だそうです。ただ去年は一人、一昨年はなんとゼロだったそうですから、増えているのは確かです。この調子で増えていって欲しいと思います。

支部総会には本当に幅広い年代の方々が参加していらつしやいました。お話を聞くことは楽しく、また、今後自分自身の成長につながることもたくさん教えていただきました。年代を越えて、こうして同じ大学で学んだという縁が合い、先輩方に会えたことを大切にしたいと思えます。今後とも出来る限り参加し続けてゆきたいと思えます。

●杉田佳世子（大56）

初めて参加させて頂いた総会には、まず会場の豪華さに驚き、参加された方の多さに驚き、そして何より、幅広い年代と様々な経験をされた方々が御集りに

野宗佑氏以来で、昨年の参議院議員選挙に当選した西田昌司氏が今日見えている。東京に住所を移している。

今日は暑い気持ちで盛り上げて欲しい。

なられていたことに驚くと同時に、滋賀大学の歴史の深さを感じました。会場では、先輩方が気さくに声を掛けて下さり、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。四月からの一人暮らしに加え、東京は会社の同期以外にほとんど知り合いがいないということもあり、五月病になりかけていましたが、先輩方や同期との交流を持てたことで立ち直る事が出来ました。また参加された方全員とお話しすることは出来ませんでしたが、こうした機会であればお会いできない先輩方とお話し出来たことや、東京で勤務している同期の間で繋がりが持てたことは、他では得難いものであったと思います。今回の総会の準備に当たられた大学二十回の先輩方にお礼申し上げます。まだ正式な配属が決まっておりませんが、東京附近の勤務地になりましたので、ぜひ来年度も参加させていただきますと思います。

山崎一真氏は早稲田大学卒業後、野村総合研究所入所。二〇〇二年退任。鎌倉市在住。専攻は地域政策論。



滋賀大学には、平成二〇〇二年からお世話になっている。二〇〇三年に、大学法人になり、その準備もあって、民間の者も

ということとで奉職することになった。所属は滋賀大学産業共同センター長、地域連携センター長、学びなおし塾長等である。産共センターは、従来の教育と研究の使命以外に、大学の知的

資産や先生、学生、研究成果を地域社会のために生かしていることとするセクションである。

特に地域連携センターは、大学と地方自治体との関係を進めていこうとするものである。学びなおし塾は小泉元首相の、再チャレンジする日本を作りたいとの考えから、社会に出た者が

学びなおして更に高度の考え方、理論、技術を身に付けていくことを目指すもので、国からも助成金を得ている。社会人を主として対象としている。

大学は、二〇〇三年から六年間の中期計画に基づいて行動している。今年是最終年で、第二弾目の中期計画を成瀬達夫学長

のもとで立案中である。

さて、「母校と彦根の時のデザイン」は過去から現在に至る過程を十分に再評価しながら、未来に向けて進んでいくためにデザインしていこうということとである。

去年、大学は彦根城築城四〇〇年祭に協賛して、滋賀大学の建学の精神である士魂商才をふりかえり、大学の歴史を再点検し将来に向けて考えようというチームを作り、そのリーダーをやった。

士魂商才

昨年、十月十三日から二十八日までの間、彦根キャンパスで、士魂商才の体現と本学の歴史を実感してもらおうと「士魂商才館」というパビリオンを張った。写真を展示、パネルを作り、映像表現、講演を行なった。滋賀大は城下の非常に重要なところ

にあるということから、お城と大学との間のキャンパスツーリズムを提唱した。映像展示としては高商時代の卒業アルバムや戦前のアジア修学旅行、現在の大学の案内などを見ていただいた。講演会は、士魂商才、本学の歴史等に関して、土日毎に計六回行なった。また教科書展を開き修身、道徳の教科書や、彦根藩校「弘道館」の本を並べた。

滋賀大の場所は嘗て彦根藩の百五十石から二百石の中級の武士の住まいのあったところであ

誘致合戦が行なわれ、九年に彦根に決定して、大正十一年（一九二二年）に設立された。元の彦根藩士や近江商人からの多額の建設資金の寄付が決め手となったといわれている。また彦根城に隣接する中島町の敷地が提供されたのも大きな力となった。

キャンパスは四方を水に囲まれた学の独立を象徴する空間であり、藩校に近いということは立地条件に恵まれていた。また家老クラスの侍屋敷跡でもあっ

特別講演

「母校と彦根の時のデザイン」（要約）

滋賀大学経済学部教授 山崎 一真氏

る。日下部鳴鶴という明治の日本の代表的な書家の屋敷があつて、それに因んだその同好会の書道展をやった。またこの美しいキャンパスをユビキタス技術を使い、楽しんでいただいた。QRコードを付けてキャンパス内を、携帯の待ち受け画面に出

てくるビューポイントを作り、お城、伊吹山等の眺望を楽しみながら散策していただいた。彦根高商は大正七年、滋賀県に設置の内示があつた。彦根、大津、近江八幡との間で大変な

た。大正六年の航空写真を見ると桑畑になっていて侍屋敷跡とはとても考えられない。明治になつて武士が俸禄を失い、屋敷を維持できずに手放し、彦根を離れた。その跡地が桑畑となつて養蚕業を起し、産業を立て直した。

士魂商才の発案は福沢諭吉であつた。江戸時代、商が一番低い仕事と見られていた。開国後、世界に伍していくには商工が大切になってきたが、精神はそうはなっていないかった。その精神

を鼓舞しつつ、誇りをもってやっっていくということを主張した。利よりも義を、私の立場よりも公の立場を重んずる、武士の魂と才知ある商売を行なう思想であつて、儒教思想、饒商意識の払拭を目指す、近代的国家意識体言の一表現であつた。

近江商人に学ぶ

彦根高商は、彦根の持つ歴史文化の中で独特の意味付けが行なわれた。如才ない商人の育成ではなく、大老のような上品、優雅で視野の広い教養人を育成すること。資本主義的利己的商人ではなく、社会奉仕を心がける商人の育成であつた。近江商人の「三方よし」の「売り手よ

し、買い手よし、世間よし」の考え方を取り入れた。商才を士魂によって鍛え、経済活動を人間の共同目標へ正しく導くという独特の意味付けがなされた。建学の精神は地域社会への奉仕、貢献を前面に出した近江商人の精神や、幕末期、彦根藩が示した先見性と教養重視の伝統とも重なるものである。

近江商人の研究は滋賀大学附属資料館がメッカになっている。近江商人は京都、美濃、伊勢、若狭に行商し、鎖国後、京、

大阪、江戸の三都へ進出し、蝦夷地で場所請負人になる者もいた。複式簿記の考案や、薄利多売と社会貢献の精神は、今日の企業の社会的責任に通じるものである。資料館には天秤棒をはじめ近江商人が行商の際、使用した道具類が展示されている。八幡商人、日野商人、五箇荘とか愛知川の湖東商人等、彦根藩の藩内の商人が多い。持ち下り商品で儲け、復路の上り荷で商った。江頭恒治先生は研究者としての大家であった。

昭和六年の満州戦争からの十五年戦争を経て、支那科の設けられた昭和十一年から戦後の新制大学設立までは混乱期であった。学生の労働奉仕により南側水路の埋め立てが行なわれ、支那科の研究会館である東亜会館、OBの会の陵水会館が建設された。移植民研究や戦時経済、東亜経済が研究され軍事教練も行なわれた。このときの資料は滋賀大が全国的にも誇れるデータベースになっている。戦争を遂行すべき教育機関として経専を経て工事になった。

戦後、昭和二十四年、滋賀師範と合併して滋賀大学が誕生した。戦前戦後の激動の時代を経て、昭和四十三年頃までを揺籃期として大学の形を模索した。昭和三十八年はNHK大河ドラマの第一作「花の生涯」が放映された時代で、彦根は名をあげた。多くの新制大学は幾つかの大学が一緒になり、あるいは移転して新しいキャンパスを設けたが、滋賀大は激論が戦われ、なかなか決まらなかった。経済学部と教育学部は別々のキャンパスに決定された。他の大学に比べるとかなり遅れ、昭和四十四年以降、施設整備、学科、大学

院などの充実による基盤整備が行なわれた。木造建校舎から鉄筋コンクリートの校舎に変わっていった。学生運動も苛烈を極めた一方、管理科学科、会計学科、大学院経済研究所の設置、コンピュータ科も設置された。

昭和六十二年以降は発展期である。彦根の郊外に住宅地、市街地が形成され、県立大学ができ市立病院が移転した。一方で、中心市街地のシャッター通りが現出したところを活性化すべく、夢京橋キャスルロード、四番町スクエアが整備された。

大学としては経営リスク専攻の博士課程がつけられ、様々のセンターがつくられた。現在、滋賀大学と周辺の県内の市町村との包括協力協定が結ばれ、一体となって成長していこうと、推進されている。

新理事長に大森修太郎氏(大10)

平成二十年度陵水会評議員会総会が、去る六月七日(土)大学構内にて開催され、平成十九年度事業報告ならびに収支決算につき承認のち、平成二十年度事業報告と収支予算案を検討、これを承認した。

二十年度事業計画は左記のとおり。

一、企業・大学生との就職懇談会Ⅱ四月十七日

二、第二回陵水会ゴルフコンペⅡ六月六日

三、ジュニア陵水懇話会Ⅱ六月十三日

四、陵水協力講義の実施

五、第三十回陵水懇話会(担当Ⅱ大30)の実施

六、OBによる協力講義「リリーダシッブ論」Ⅱ十月三日(十一月二十一日)

七、陵水会計人連合会学生説明会の実施

八、陵水会年報の発行

九、陵水会会員名簿の発行

十、陵水会同期会への支援Ⅱ同期会構成員の三十%以上の参加条件

十一、その他、年会費の納入率アップ、在学生の諸活動成果への表彰等を実施

総会では、これまでの陵水会理事長・堀川馨氏(大7)の後任として、新理事長に大森修太郎氏(大10)を満場一致で選出した。東京支部からの役員としては、副理事長に西坂徹雄氏(大9・支部長)、理事に宇治原嘉政氏(大7)、守谷貞夫氏(大12・副支部長)、加藤博善氏(大14・支部幹事長)が選任された。

新理事長の大森氏は、これまでで彦根・湖東支部長に在任し、本部では副理事長(財務担当)として活躍されてこられた。一方、かつては彦根市長選にも出馬し多数票を獲得した実績をもっておられるとのこと。

新理事長の大森氏は、これまで彦根・湖東支部長に在任し、本部では副理事長(財務担当)として活躍されてこられた。一方、かつては彦根市長選にも出馬し多数票を獲得した実績をもっておられるとのこと。

大森新幹事長の挨拶から

大学法人化に際して、前理事長は、陵水会として何が出来たかを真剣に考え、積極提案型で取り組んでこられました。そのあとを受けて今後は、大学側から要望を出してもらい、これに陵水会がいかに対応するかを考え取り組んでいきたい。歴代理事長が築かれた多くの実績を汚さぬよう努力したい。

成瀬龍雄学長再選される

大学役職員決定

平成二十年度以降の大学新人事が決定した。関係分は左記のとおり。(敬称略)

学長 成瀬龍雄(任期 22・3・31まで)。理事 力石伸夫(大12・任期間)。監事 野口真一(大35・任期間)。経済学部長 小西中和(任期間)。副経済学部長 小倉明浩(大31・任期間)。特任教授 戸田一雄(大12・一年更新)。特任准教授 川崎晃(大14・任期間 同)

開校式には、すでに講堂はできていて、市民が挙げて祝福した。三年のうち少なくとも一年は寮生活で、学生生活の基礎を

こんにちは

日本駐車場開発株式会社
取締役副社長

川村 憲司氏（大37回）

去る四月二十二日（火）川村氏を東京・丸の内の新しく建設された新丸ビルに伺いました。

——毎号インタビューで訪問記を載せていますが、若い方々と思っておりますところ、支部長の西坂さんが、川村さんに白羽の矢を立てられましたね。

川村 滋賀大学には何の貢献もできてないなあと思いつつながら、四十四歳になりました。当社には陵水会のメンバーは、関西の方に一人か二人いるくらいなものです。大学から採りはじめたのは五、六年前からで、あんまり学校出とか、職歴とかを問わなくて、新卒以外の社員は殆んど中途です。

——この四月は何名採用されたのですか。

川村 四名くらいしか採れなかったですね。集ってくる学生の層はだんだん変わってきています。今年、東京市場一部に上場換えしましたが、上場する前と

その後とで全く違いましたね。株式欄の不動産関係に三菱地所、三井不動産とかと一緒に載せられてますから、会社訪問してくるのが結構多いですね。何社も内定貰ってる学生が、結局は三菱商事とかに行っちゃって、四人くらいしか入社してきません。この間まではジャスダック市場でして、天秤をかける相手の会社さんも、それなりのレベルだったんですが、その中では割と将来性があるとみて来



ていたんでたんです。その母集団がグレード率が上がったんで。メジャーリーグみたいなものです（笑）。マイナーで戦っていた時はいい選手が採れたんですが、全然通用しなくなつて、楽天みたいに頑張っています（笑）。

——ご出身は。

川村 大阪です。大学まではずーっと大阪にいました。高校も天王寺区の大阪府立高津高校でした。実家が今里で、自転車で

十分もかかりませんでした。

——滋賀大への入学は何か、きっかけがあったんですか。

川村 我々の時は共通一次の一次の発勝負だったんです。今のよう前期、後期とか分かれていない。滋賀大学の経済学部が二次募集をやりました。全国でも珍しかったんです。共通一次の結果の紙を張り付けて願書を出す傾向配分して百人採ってくれたんです。

うちの親父が、「滋賀大学は彦根高商といって、それはお前、そっちに行くべきじゃないの」って強いうんです。関西の私立に合格して、そっちに行こうと思つてたんですが、親父が強う言うんで、喜ぶほうがいいかなと思つてお世話になることにしました。

——寮に入られなかったんですか。

川村 二次募集入学だから寮も一杯で。芹橋の三畳ばかりのアパートから出ました。一年後に南彦根駅の方に行くところの後三条に移り、後の三年間住んでいました。

——ゼミは。

川村 門脇先生で、経営学です。今も教えてられます。ゼミ学生は十数名でした。

——サークルは。

川村 グリークラブでした。当時、滋賀大で一番大きいクラブで、三年の時にグリークラブの部長をやりまして、その時、八十人いましたね。高校まで歌を歌ってきたという人は少なくて、大体、スポーツで体育会系の人で、とりあえずグリークラブに入っていました。女性は、五百人中十七名くらいしかいなかった。

——いまは三割ほどいますよね。

川村 先輩が、「大学には女性はいない。だから彼女もできない。グリークラブへ入ると女性お前ら入れ」と、下宿まで勧誘にくるんです。そんなやましい気持ちではいたんですが、四年間続けました。四年の時はクラブをやりながら文化サークル連合の委員長をやらせていただきました。学校の行事に参加しました。あのグリーが、今はなくなつたんですってね。

川村 そうなんです。淋しいですね。女性が結構増えて、そういう誘因がなくなった、大学でグリークラブをやるという人間勧誘を一大行事として一所懸命やってたんですが、それをさぼ

った奴がいたんでしょね。

株式上場を果して

——就職は。

川村 阪和興業という商社に就職しました。その当時、バブルでしたから、就職は売り手市場でしたね。結構、内定を頂けたんです。その中で海外に行かしてあげるよと言われ、何となく海外に行つて仕事をする憧れを持つたので、入ったんです。東京採用で貿易部に三年くらい勤務して、駐在に出してもらいました。南米のコロンビアです。

——三年というところ。

川村 二十七歳のときです。四年間いました。むこうの鉄の輸入をしていました。日本とか台湾の鉄を入れて現地で新規開拓して売っていくということでした。日本に戻つてきて十カ月ほど東京にいました。その後、会社から上海に、大学留学させていただいたんです。中国語を勉強してこいと。それが一九九七年（平成九年）です。一年間、大学に入って中国語を勉強して、帰つて来て、北中南米向けの輸出のビジネスをやり、合計十年勤めて退職するということになりました。

——退職はプランの中に入つて

たんですか。

川村 いや、入ってなかったです。その当時はまだ、今みたいにカジュアルに転職していくというのが普通じゃなかったですね。

千何百人いた会社なので、いろんな人が一杯いたんですが、凄く頑張って会社に貢献している人と何にもしない人との格差が殆んどなかったですね。ここです。後、何十年、一所懸命頑張ってもと思ったんです。

そんなときに、この会社、日本駐車場開発と出会うんです。滋賀大で一年後輩の岡田健二君がいて、最も仲が良かったんですが、彼がこの会社に入ってたんです。彼も違うところに就職して、僕を誘うでしょう。一年前に転職してたんです。そんな気持ちの時だったからメシ食おうかとなって「僕、駐車場の仕事やってるんです」と。そいつの肩書が専務取締役と書いてあったんですよ。「専務って、えらい偉ろうなったなあ」と。わたしはペイペイでしたから（笑）。仕事辞めようかなと思ってるという話をしたら、「いろいろ捜して、最悪うちに来てくださいよ」と言ってくれたんです。資料とかを見せてもらった

りして、駐車場というのは意外と隙間でいけるかも知れんなあと思ったんです。それで、社長に会わせてくれといったら「いいよ」ということになって、会いました。社長は異（なつみ）一久とい

——その頃の会社規模は。

川村 三十人くらいでしたか。元々、異が大学を卒業して始めた会社で、平成三年に設立されてます。我々は設立されて七年目くらいに入ってるんです。その三年後にジャスタックに上場するんですが、上場というのは会社を良くするいい手段らしいという話になりました。東大に入るより何倍も難しいとか言い出し、そんなに難しいんだっから、じゃあ俺たち無理ちゃうかとか（笑）。だけどやってみようか、会社良くなるんだっからチャレンジしてみようと。それで、上場めざし走り出したんです。一九九九年（平成十一年）末から二〇〇〇年でした。僕らは一部以外は眼中になかったの

は、親戚一同がやってた駐車場を管理する仕事だったんです。いなかの路面の駐車場で、例えば駐車場を一台二万円の月極めで管理したら二千元とかの、二十台管理しても月四万円しかないものだったんですね。後には何するかといえば草を採ったり、空いてしまったら借りませんと募集したり集金したり。そこから大阪に出て行っただす。千五百平米以上の床面積のビルは駐車場を付置しなさいという法律がありました。そのビルへテナントが入るじゃないですか。テナントは車を使いますから車をとめるスペースが必要で。当時、バブルがはじけてましたんで、固定費削減となると車をやるんですよ、みんな。そうすると駐車場が空いていくんです。会社潰れるでしょう、また、駐車場が空いていくんです。ビルはいっぱいあるんですが、駐車場はがら空きやつたんです。テナントも空いてるし、駐車場はもって空いている。

紹介ビジネスを経て

堂筋のどこもが。そこにお客様・ユーザーを捜して紹介して手数料を貰うビジネスを始めたんです。例えば四万円の車を一台仲介すると、オーナーさんに一台二ヵ月分の手料下さいとい

汗かいて値段の設定さえ間違えなければ、借りる人いるんです。ユーザーはコストダウンしたいから、安く設定してあげれば借り換えるんです。二十台くらい一台五万円で借りてるユーザーが、駐車場までちょっと歩くけど四万円になれば一台二万円、二十台で月二十万のコストが削減できるとなると、それはいいねと。一発で二十台決まり二百

だが、ある一定の人数になると売上が増えなくなっただす。エリアの問題で回るところが限られてきますから、いくら人数がいても効率が悪くなってきますね。結局、十人のときと十五人のときと売上が一緒になったんです。何人かの優秀な営業マンは二百万とかを稼ぎます

が、稼げん人は二三十万とか、給料分も出て、へんみたいなことになり、それではちょっと、となりません。たまにその稼ぐ人たちが風邪ひいて休んだりすると、成績ががーんと落ちるんです、月次の売上が。月で、でこぼこになるんですね。

右肩上がりでないと上場できないのに、これじゃいかんよね。いろんな人の教えをお伺いに行った時に、ちょうどセコム

の名誉顧問の飯田亮氏に教えていただいたんです。さすが凄いなあとと思ったのは、べらんめい口調で「ビジネスというのはランニングだよ、積み上がらないと駄目なんだよ。君らのやってるビジネスは積み上がらないでしょう。情報も積み上がらないし数字も積み上がらない、何にも積み上がらない。そういうビジネスやってる限り会社は伸びない。何でセコムが儲かってるか知ってるか。セコムは積み上げなんだよ。機械式警備をやり、機械を取り付けると解約は殆んどない。薄く毎月二千元とか入る、ランニングで貰っていくんだよ。契約取れば取るほど座布団式で上がっていく。出勤というときまあ、減多にない。ないことが好ましいしセコムをつけてるといいことが非常にセキユリティーに繋がってるから変な泥棒が入ったりしない。出勤なんか十年間に二回とかそんなんで減多にない。それで積みあがなんだ、それで安心を売るんだ、俺たちは。」

ちょうど僕らがやってたビジネスの中で、四十台中二十台空いているビルの駐車場で、二十台全部まとめて借りていたモデルがあったんです。全部借り

てしまつてそこにお客さんを募集してたんです。二十台を、例えば一台二万円で借りちゃった、だから後どう貸そうが我々の勝手だと。それを三万五千元で皆に貸して満車になったら一台あたり一万五千円のサヤが出ますね。三十万円の利益が毎月入ってくる、月極だからそんな出入りないんですよ。一回、満車にしとけばずっと一年間毎月三十万の利益が入ってくるんです。七十万の売りがたつて四十万の仕入原価で三十万の荒利がはいるとというのが一件あったんです。

信用がないがため

飯田さんが「これいいね、これを積み上げろ」ということで、サブリース・転貸、借り上げて転貸するモデルに、全部シフトしたんです。飯田さんの話を聞いた次の日から、紹介ビジネス禁止としたんです。極端ですけど、全員このモデルの契約を取れと。

普通、二十台とかを仲介すると手数料が一発に二百万とかになるんですが、それがこの二十台のモデルを一所懸命オーナーさんと契約して、やつとこさ満車にしても三十万にしかなら

ない、月でいうと。一年くらい経つと、三百万とか三百六十万とかになるんですが、瞬間的にはインパクトが弱いんですよ。それでいくぞーと全員営業させたんですが、なかなか契約が取れない、そう簡単に。

全部一括で任せるということは相当な信用がいるんですよ。上場もしてない、ネクタイも曲った奴が来る、言葉遣いも悪い営業マンが行つてはね。前の、一台借りる借りないのビジネスと格が全然違うんですよ。オーナーさんの懐に入るといふ、大切なビルの一部を全部任せるといふことは、信用力を得ないと契約なんか取れないんです。来る日も来る日も契約が取れない、しかも日銭の仲介を禁止したので、収入なしでコストだけ出て行く赤字が月次で続くんです。会社潰れるんじゃないかみたいな、ぎりぎりの時に、やつぱり仲介をやろうと。

そこで、オーナーさんの信用を勝ち取って契約を取れる人と、取れなさそうな人とに分けたんです。そうしたら、日銭が入ってくるじゃないですか。紹介ビジネスで収入も少ないながら入って、本命は少数精鋭で契約を取りにくい、それでだんだ

ん契約が取れたしたんです。一件取れたらここやってます、ここから任せていただいてますと言えるんです。

僕らは最初にナンバーワンのところを落さないで、やつぱりしんどいと思ったんで、生命保険会社は日生か明治か第一さんしか狙わない、不動産会社は三井不動産さんしか行かないとか、トップを狙ったんです。一年くらい経つて、第一生命さんが、信用がないから契約できないと言うんですよ。「根気も度胸もよくわかった、一所懸命やってるのもよくわかった。だけど、ただ会社の与信がおりないで」という方がいて、ちょうど退職する前日かなんかに、はんこ押して回してくれたんです。それがきつかけで今、第一生命さんは三十棟くらいやってもらっています。第一生命ができたなら、そんなら明治も日生もやろうかとなりました。

その当時ちょうど資本政策を



始めてましたので、株主を誰にするかで、関係ありそうな駐車場を当らせたら、全部断られたんですよ。だが、トヨタ自動車さんだけがOKしてくれたんですよ、「それは面白いと」。車と駐車場は関係あるから。今のトヨタの豊田章男さんという副社長が、その時は平取だったんですが、面白いからいいよといって一千万円出してくれたんです。それで何とかジャスダックに無事二〇〇三年（平成十五年）の二月に上場でき、二部経由で一部まで行くのが一年十ヵ月でした。ジャスダックから一部まで行ったスピードで最短記録です。やれやれと思ったんですが、本当の試練は一部に行つてからですね。

しんどく全員ふらふら

——— どういう意味ですか。

川村 上場したらまあ、それで終わりみたいなところが結構あったんですが、上場することば株主ができ、会社を応援してくれる人が一杯できるわけですよ。来年どんな数字を目指して頑張るんやということを発表しないといけない。上場企業として、発表したらそれを達成しないといけない。達成しな

いようだったら下方修正をしなければならぬ。上にいったら上方修正をする、あんまり緩いのを計画として出してすぐ上方修正をするとかは、それもヨミが甘いと怒られる。頑張った数字を目標に置くと、それを行かなくては行けないのです。ベンチャーだから三〇%成長四〇%成長当り前といわれる時代で、ちょうどITバブルが弾けてベンチャー、ベンチャーといわれた時期ですからね。その数字をどこに置くかを決めて、それをゴールに向けてひたすら走るというのが本当にしんどかったですね。

上場したら皆んないことあるよと社員を引っ張って叱咤激励して、しんどいけれど頑張れよとね。上場したら余計しんどなったみたいな感じでした。それを率いる我々自体も結構ふらふらになってやってたんで、しんどい日が続きましたね。そういうことでやっぱり岡田なんかも体を壊したりして。労基（労働基準法）だなんだって、役員は関係なく、二十四時間三百六十五日体制で戦う勢いでやってきた疲れの上に、更に数字だ数字だという風潮だったんです。社員を蔑ろにしながら株主に対

して数字を作って、株価を頑張って維持するために仕事をしたみたいなことだったんですが、そこで初めて去年、下方修正したんです。もう無理ということ、一回立て直そうと。

所か二カ所出していいことと。東京はマーケットが大きいんで、伸びていくんですよ。ただ、地震がある、リスクがあるといわれているから、東京とか関東とかに集中していると、なんかあったときに会社がつぶれるなという危機感があつたんです。そこで、東京で五〇%、その以外のエリアで五〇%というバランスにするように出店していこうと。今、東京は五五%くらいですか。

あくまでビルとか商業施設、ホテルとか建物の付置された駐車場を改善していくということをやっています。タイムズさん、リパークさんとは駐車場というくくりでは一緒でも、やってることは全然違うんですね。このビルの下とか、丸ビルの下の駐車場とかのオペレーション、運営を全部任せてもらってるんです。

会社は法的には株主のものと明確なんです。従業員がいて、いいサービスをクライアントにして、そしてお金を貰える、利益が上がって株主に還元するというのが順番じゃないかなあと。最初は僕らも経験不足で、やっぱり株主に向いて経営しないと。社員がえらい疲れてるのに、給料も安いままで走り回ってました。それを、制度も全部整えて教育もちゃんとしましょう、マニュアルも作って、社員がいい会社社に勤めるといふプライドを持たせてあげるようにして、次のステージに進んでいくと、目指しているんです。

ある意味、株主の皆さんに株価が下がってご迷惑掛けたんですが、後、何年か持つてもらえば元に戻すように一回、兵を整えさせていただいて、上を目指すと。そんな状況ですね。

——全国展開をなさったのは以前からですか。

川村 そうです。上場の途中から、支店はやっぱり一年に一カ

所か二カ所出していいことと。東京はマーケットが大きいんで、伸びていくんですよ。ただ、地震がある、リスクがあるといわれているから、東京とか関東とかに集中していると、なんかあったときに会社がつぶれるなという危機感があつたんです。そこで、東京で五〇%、その以外のエリアで五〇%というバランスにするように出店していこうと。今、東京は五五%くらいですか。

あくまでビルとか商業施設、ホテルとか建物の付置された駐車場を改善していくということをやっています。タイムズさん、リパークさんとは駐車場というくくりでは一緒でも、やってることは全然違うんですね。このビルの下とか、丸ビルの下の駐車場とかのオペレーション、運営を全部任せてもらってるんです。

——今後もそういう方針とか、経営でいかれるんですか。

川村 そうですね。平面コインパークというのは、競走が激しいじゃないですか。土地さえあって、機材をポンポンとつけたら、誰でもできるビジネスです。ある駐車場の用地があつたとして、みんなやらして欲しいと各会社

がワーツとくるんです

よ。そうすると俺、十万で借りるよ、いやいや俺は二十万で借りるよと、上がっていきますね。落札しても、儲からんようになってるんです。ちょうど道路交

のすごく良くなったと、テナントに評判なんです。そうしたらビルオーナーが「一体何ごとや」と。「みんなテナントが凄い喜んでる。君らのオペレーションどうなっとんねえ」という話で。

それが実は種があつて、五十台位の駐車場で、テナントが例えば二十五台借りていけるとするでしょう、残り二十五台空いてますね。その残りの二十五台を全部借りたとしますね。例えば二万円で借りると五十万円、オーナーは五十万入ってくるんです。で、もともとビルの管理人として一人いたんですが、別に座ってるだけで何もしない。その人に月、三十万位かかってたのを、我々サポートしますからちょっと首にして下さい（笑）、申し訳ないですけど外の現場に移してあげて下さいと。それで三十万浮きました、五十万先に払ってるから八十万増えましたね。オーナーさんも八十万という年間一千万くらいです。で、僕らはどうするかという、その二十五台に月極を外部から付けたんです。二十台くらい、殆んど満車にしてしまいい、四五台空けて、営業車ばかり付けたんです。すると朝



駐車場三毛作

そこに一日千五百円とかで一日だけ利用するビジネスマンを募ったら、一杯来たんです。毎日使われない雨が降った日は車で来たい、脚が痛い時は車で来るとか、一日使う人で結構埋ります。その残りを一時間いくらかで、時間単位貸しすると常に満車状態なんです。で、一般にいう稼働率というのは難しいんですけど、月極で満車になつて稼働率を百というじゃないですか。空いてるところを後二回か三回貸すわけですから、何百パーということ、機械でないとできない。平面だとAは川村さん、Bは誰々さんと決つてるじゃないですか。何

で俺のところへ違つてる奴が止つてるとなるんですが、機械でのパレット貸し・空間貸しです。から、どのパレットが誰とか決つてない。駐車場の三毛作と呼んでるんです。

商業施設もそうですが、例えば青山ベルコモンズといつて青山の老舗の商業施設ですが、タワーゲットは三十代四十代のセレブとかマダムというような、ちよつとお金のある人がタワーゲットなんです。駐車場が横についてるんですが、狭くて女の人が右左だといわれながら入れなければいけない。だいたいセレブが乗ってる車は、ベンツとかご主人のBMWとか左ハンドルなんです。その機械は右ハンドル想定で、左側に降りられないんです。左から真中を乗り越えて右に出るというセレブはあんまりいない。その時にビリッとか破れたり（笑）、邪魔くさいというので車で来なくなつたんですよ。タワーゲットとする人が来る駐車場にとってはミスマッチなんです。ベルコモの売上も下がつてたんです。

そこで、全部僕らに任せてもらつたんです。人を付けて入る前にドアを開けてあげ、降りていただいてスタッフが乗り込

んで中へ入れる。戻ってきた時はスタッフが出してあげて、荷物を積みドア開けてあげて、ありがとうございました。そのスタッフをイケメンにしてみたいです（笑）。無茶苦茶好評でマダム受けが凄いい、それです。

つごくはやつたんです。スタッフの中には車あげるとか言われたのもいて、そういう現場現場で商業がメインであるテナントが、最も有効に使えるような駐車場運営というのを僕らが実現してきたんです。

今、銀座で年間一千万、二千万、アルマーニの服を買う人が一杯いて、そういう人がいい車で来たときに、しゅつと預つてどうぞと車を回すバレーサービ

て機械の欠点をローテク（low tech）で補うというのが我々の隙間ビジネスなんです。現在、全国で六百弱の駐車場を運営してるんですが、百五十カ所がそういう人をつけた駐車場なんです。

——駐車場のコンサルティング業務とありますが、わかるような気がいたします。

川村 いつも営業の若い者にいうんですけど、僕らが回ってる商業施設とかビルのオーナーに、駐車場改善しますよ、収益増やしますよと言っても、そんなに響かないよというんです。例えば収入の比率でいうとテナントが九五%で駐車場部分は五%くらいですね。上がしつかりすれば駐車場はどうでもいいやと。

一ホテルもそうですが、車をバレーサービスしているのもうちのスタッフです。で、空いてる時間はドアマンの業務をするようにしたんです。コストが削減できるから、ホテルから凄く喜ばれました。そのかわりウエスチンホテル大阪とかのホスピタリティの教育をしつかりやって、そのノウハウをまたうちの会社に入社して活かしていく。駐車場ですが、敢えて人を付け

で、そういうアプローチじゃなくて、そのビル全体をいかに活かすか、いかにいいビルにバリューアップするかという提案をうまくコンサルをしてあげると、たかが駐車場されど駐車場のようです。ツインタワーといつてもテナントが違いますから、一つとして世界中に同じビルがないんです。そのビルそれぞれには、それぞれの駐車場の運営のやり方があっていいんじゃない

いかというふうに提案するんです。オーナーさんの問題点とか、どういうテナントさんが入ってるかを全部聞いて、じゃ、こうやったらいい、こうなったらいいんじゃないですかという提案をしていきながら、その通りに実現しますとコンサルした上で、プランまで立ててやっちゃうというのが評価されています。

——官公庁のビルなんかはどうなんですか。

川村 官公庁のビルは今まで避けて通ってきたんです。スピード感がないじゃないですか。提案してから、ゆるゆるしているとお金にならないんで、上場とか目指してる時は無理で、いま地方の官をゆっくり攻めていきたいと思っております。特定道路財源、三セクとかは各地方に何十億も使ったのが稼動してないとかよくあるのを、今から改善していくって仕事の一つにしたいと思っております。

——そうすると展開はまた海外へとか。

川村 そうですね。今、韓国でコンサルをセッティングしています。インドとかタイ、シンガポールとか、中国もそうですけれど必ずそういうニーズは出てくるはずですね。去年、中国からオリンピックに備えて、五千台の大型プロジェクトの駐車場を運営してくれないかと言われたんですが、よく法律が変わります。まだ完全に制度が出来上がっていないから、しょうがないことなんでしようけれどもね。マンションの下の駐車場は一時間、上限二元までとか、商業施設は五元までとか、建物によって区別されてるんです。複合施設みたいな商業あつてマンションあつて、デパートあつてという微妙に時間貸しの料金を変えなくちゃいけない。二元が三元になりましたとか、ころころ変わるんです。だから非常に今はやりにくい状況なんです。五千台で一所懸命頑張って一年間稼ぎました、それが一千万円でしたではですね。駐車料金はあまり取れないんです。

——業界では断トツですか。

川村 そうですね。ビルを運営している会社としてはかなり断トツやと思います。三井不動産の子会社のリパークさんなんか、三井のビルの下の駐車場をたまにやったりしますけれど。

——何か秘訣があるんですか。

川村 やっぱり地道な集客活動をするということと、グレンデをちゃんと整えるということ、リピーターを増やす、一回来たお客さんのハートを驚かすというスキー場にしない。あとレストランとかそういう施設もちよつとおしゃれにすると、他のスキー場とは違うという細かい技の集大成でやっていくしかないですね。がんがんにスキーされない方も楽しめるスキー場にしようということ改善しています。

——スキー場がうまく行けば、また次の新しい何とか開発とかとあって、社員のみんながアイデアを出して来ます。日本無人島開発とか、いろんな開発で、世の役に立って、そして利益が出るといようなビジネスを探しています。例えば農業とかで、今後、自分のところでどれだけ食糧を賄えるかが言われてくれる農地を開発したり、働いていない人がいるということであれば、そういう人たちがうまく農業に結び付けていければ、チャンスはあるんじゃないかと思うんです。農業開発は本場にビジネスになるのかわからないのか、まだ解らないですけど、絶対ならないとも限らない。

——まだまだお伺いしたいんですけど、東京陵水会との何か繋がりってありますか。

川村 今まで全然なかったんですけど、気になってましてね。我々卒業生数名ではたまに集ったりしてるんです。この間も六人ですが集って飲みました。だんだん四十を超えてくると彦根の話ばかりなんですよね。最近の彦根ってどうなってるんとか。そういえば陵水会って誰か、なんかやってんの聞いてたら「いやあ、できてないなあ」と。だけど、子供もだんだん育つてきているという時期なんです、ちよつと振り返れる年令に達したんです。じゃあ、陵水会も折角あるんだし俺達も何かやっていかんとあかんちやうかと。

——支部長の西坂さんが打ち出してるのは、先ずは支部の総会を盛り上げようと年一回の会への参加を呼びかけです。支部総会への参加も、もう一つという感じがするんですね。川村さんからみて、そういう総会には出られないっていう意識ってあるんですか。

川村 単純に忙しいというだけで、みんな滋賀大経済学部とか彦根高商とかに誇りを持って、今、東京における奴らは日々過酷な中で、ただ忙しいということだと思います。また、行

お客さんのハートを驚かすというスキー場にしない。あとレストランとかそういう施設もちよつとおしゃれにすると、他のスキー場とは違うという細かい技の集大成でやっていくしかないですね。がんがんにスキーされない方も楽しめるスキー場にしようということ改善しています。

——スキー場がうまく行けば、また次の新しい何とか開発とかとあって、社員のみんながアイデアを出して来ます。日本無人島開発とか、いろんな開発で、世の役に立って、そして利益が出るといようなビジネスを探しています。例えば農業とかで、今後、自分のところでどれだけ食糧を賄えるかが言われてくれる農地を開発したり、働いていない人がいるということであれば、そういう人たちがうまく農業に結び付けていければ、チャンスはあるんじゃないかと思うんです。農業開発は本場にビジネスになるのかわからないのか、まだ解らないですけど、絶対ならないとも限らない。

——まだまだお伺いしたいんですけど、東京陵水会との何か繋がりってありますか。

川村 今まで全然なかったんですけど、気になってましてね。我々卒業生数名ではたまに集ったりしてるんです。この間も六人ですが集って飲みました。だんだん四十を超えてくると彦根の話ばかりなんですよね。最近の彦根ってどうなってるんとか。そういえば陵水会って誰か、なんかやってんの聞いてたら「いやあ、できてないなあ」と。だけど、子供もだんだん育つてきているという時期なんです、ちよつと振り返れる年令に達したんです。じゃあ、陵水会も折角あるんだし俺達も何かやっていかんとあかんちやうかと。

——支部長の西坂さんが打ち出してるのは、先ずは支部の総会を盛り上げようと年一回の会への参加を呼びかけです。支部総会への参加も、もう一つという感じがするんですね。川村さんからみて、そういう総会には出られないっていう意識ってあるんですか。

川村 単純に忙しいというだけで、みんな滋賀大経済学部とか彦根高商とかに誇りを持って、今、東京における奴らは日々過酷な中で、ただ忙しいということだと思います。また、行

お客さんのハートを驚かすというスキー場にしない。あとレストランとかそういう施設もちよつとおしゃれにすると、他のスキー場とは違うという細かい技の集大成でやっていくしかないですね。がんがんにスキーされない方も楽しめるスキー場にしようということ改善しています。

——スキー場がうまく行けば、また次の新しい何とか開発とかとあって、社員のみんながアイデアを出して来ます。日本無人島開発とか、いろんな開発で、世の役に立って、そして利益が出るといようなビジネスを探しています。例えば農業とかで、今後、自分のところでどれだけ食糧を賄えるかが言われてくれる農地を開発したり、働いていない人がいるということであれば、そういう人たちがうまく農業に結び付けていければ、チャンスはあるんじゃないかと思うんです。農業開発は本場にビジネスになるのかわからないのか、まだ解らないですけど、絶対ならないとも限らない。

——まだまだお伺いしたいんですけど、東京陵水会との何か繋がりってありますか。

つてもひよつとしたら年上の方

ばっかりで、詰んない、話も合わないんじゃないかなあというところもあるんじゃないですか。僕ら行っても浮いてしまうんじゃないかという。皆さん、先輩方がいい会社のトップになられたりとか、引退されたとしてもいろんな人脈とかをたくさん持つてらっしゃる。それが若い世代、我々以下の世代とマッチングができたら凄く助かるなあと思うときもあるんですよ。

——ご家族は。

川村 家内だけです。子供はいないんで。猫でもないかと嫁はんとの会話もなかなか間が持たず（笑）。…。陵水ゴルフをウィークデーにとかは無理なんですか。僕らの同期だと大企業だと課長とか、早い奴で部長、部長代理とか、課長くらいが多いですかね。なかなか平日にゴルフとか、ゴルフは土日にはまあまあそこそこやってるんです、皆んな。ゴルフがまあ一番交流の共通の場としてはいいですよ。ずーと喋ってる必要もないし（笑）。もし企画なんかもやられるようでしたら、私なんかもお手伝いさせていただきます。

——お忙しいところありがとうございます。



丸紅の元専務の西坂さんは引退されてから知ったんです。もし現役の時に会ってたら、ひよつとしたら何か違うビジネスが、丸紅さんとできたかもしれないと思うと惜しいなとか、残念やなあとか思いました。丸紅の経営者の方に簡単には会えないじゃないですか。

——彦根の水を飲んだという共通の意識は消えませんか。

川村 言っていただけでは私も全面的に協力させていただけさま

今年の四月半ば「岩魚（いわ

な）の骨酒を堪能しようよ」と友人に誘われ、愛知川上流の政所（まんどころ）にある日登美山荘に宿をとった。

米原で出迎えてくれた友人の車で向かった。途中にある多賀大社に三十年ぶりにお参りした。

愛知川を挟んで永源寺の対岸には、かなり大規模な建物が工事中。聞けば、平成二十年八月

に開業を予定している「永源寺温泉」とのこと。

初めての春の永源寺。お参りを終え、そのまま愛知川をわたることなく宿に向かう。満開を少し過ぎ

た、永源寺ダム周辺の桜並木は素晴らしい眺め。桜を楽しんでる内に、不思議なことに気が付いた。米原から車で四〇五分、彦根からは三十分くらいにもかかわらず、桜を

楽しむ人たちがほとんどいないという事。高曇りながら雨は全く心配する必要のなさそうな土曜日の午後にもかかわらず、桜を楽しんでいたのはたった一組だけだった。六〇七年前に訪れた、東京新宿・神田川周辺の見

事な桜並木、そこも関心を持つて楽しんでいた人はいなかったことを思い出す。

湖東では訪れるたびに新しい「何か」を教えてくれる 奥村 勇雄（大15）

国道四二一号線と合流した個所には、進入禁止の表示があつたから観光客が少なかったのか？「でも永源寺の側にはそんな表示はなかったヨネ」という友人と話したが。あるいは美しいサクラに見とれて、表示を見損なったのかも。でも、国道にも車はほとんど通ってはいなかったが。

五年ほど前、お昼に岩魚の骨酒を楽しんだ日登美山荘に着いたのは四時少し前。その際に御主人から「一組だけはお泊めします」と伺ったのが、今回の岩造パンも売出し中のこと。当然のこととして、濁り酒系統のワインの確保をお願いする。僕が彦根にいた頃、このあたりの名物にコンニャクが有るとは知らなかった。そうおかみさんに話すと、「ウミ（びわこ）に近い彦根あたりと雪深いこのあたりでは、食事はかなり違いますよ」とのこと。そう言いながら食卓にならんだ一品を指さす。「これはなんだかお分かりですか。『ぜいたく煮』という大層な名前がついていますが、ぷいんとした香りがする、野菜の煮物。確かに、酒の肴には結構な品。でも、それはいい

おみさんからは「少し早過ぎますね。お風呂に入ってください。ここは温泉ではないけれど、出てこられたところ、岩魚が焼きますから、骨酒にしますよ」とのはなし。おかみさんのお父さんが、永源寺の近くで日登美ワインを醸造するワイナリーや、美術館を開いて

ゴルフ談義

七十三回東京陵水ゴルフ会
平成二十年六月十日(火)
金乃台カントリークラブ

会場の雨の晴れ間

荒天のため順延となった第七十三回東京陵水ゴルフコンペは、まさに梅雨の晴れ間の爽やかな好天に恵まれた。今回は三十九名エントリー三十七名十組で、内三名の初参加者があり、熱戦が繰り広げられた。

優勝は、大十三回の若山さん。

二回目の出場でグロス九〇、ハズレ二十四、ネット六十六と五アンダーの見事な成績であった。初参加の前のグロスが一〇六で、実に十六打も縮めた好スコアであり精進の程が伺える。準優勝は、大十五回の鶴見さんで、やはり前回の一〇七と九六と精進の跡が伺える。三位には、実力者大十回の三井さんが、久しぶりに入賞を果たした。

ベスグロは大十四回の名口さん、大が短いところでも百五十ヤード、波賞は大一回の川本さん、水平賞は大九回の西坂さんが獲得した。今回ショートホー

ルは長いのは二百ヤードもあり、八ホール中三ホールはワンオンした選手がいなかった。今大会は、下記の通り大十回・十二・十三・十四・十五回卒の選手の活躍が目立った。



優勝者 若山氏



入賞の皆さん

成績
優勝 若山 忠大(13) 66(24)
準優勝 鶴見 芳令(大15) 70(26)
三位 三井 照次(大10) 73(10)

四位 富田 博司(大15) 73(10)
五位 名口 幸夫(大14) 73(5)
七位 佐藤 秀孝(大10) 75(17)
十位 長嶺 英則(大15) 75(22)
十五位 守谷貞夫(大12) 79(24)
二十位 丸居 裕(大14) 81(20)
二十五位 中村 弘(大14) 83(16)
三十位 簗島安夫(大4) 85(18)
三十五位 田村寿夫(大12) 88(14)
BB賞 北村 徹(大14) 89(18)
ベスグロ名口(大14) 78
大波賞 川本(大1)(13打差)
水平賞 西坂(大9)
ニアピン 佐藤・石垣(大10) 若山・朝比奈(大13)・長嶺(大15)

尚、次回第七十四回は平成二十年九月十日(水)に開催いたします。

新規参加希望者募集! 山本保(047-337-4780)
yattax_888@icnet.ne.jp

『晴の伝説ついに壊れる!』

四月八日開催の定例会は雨と強風のため中止。

常磐線に乗ると前の席に最長老の中辻さんが乗っておられました。「雨天決行と書いてあるので、現地に行くだけでも行くのが務めだ。私は長い間幹事役をやってきたので、幹事役の苦労はよく判るからね」との言葉

なんだろうか。「これは半年以上しつかり漬けたんだ大根です。その古漬けを一晚、あるいは一昼夜水にさらし、ジャコや煮干しなど、しつかりしただしで煮込んだこのあたりの冬の食べ物です。今と違い、雪も多く、道も難儀でしたから、冬の食事は大変だったんでしょね。だからぜいたく煮なんていう立派過ぎる名前が付いたんでしょ。」この夏お嫁に出したお嬢さんに初孫が生まれる、と嬉しそうに話しておられたおかみさんの話を聞くうちに、だんだんと骨酒の酔いが回ってきた。

朝食の際おかみさんは「今このあたりは東近江市なんです、よ、このごろ滋賀県の地名を聞いても、さっぱりどこか判らないが、彦根に向かうタクシートの運転手さん。「子供の頃、母親に、オコウコ炊いてくれ、って言ったことありますね。そうでなかいいもんでしょ。でも、そう言えば、最近食べないな。」

日曜日の彦根は大変な賑わいでした。散りかけた桜を多くの人たちが楽しんでいました。お濠には落花が一面に漂い、見事な花イカダ。玄宮園で池を望む

をお聞きしホッとしました。

ご集合頂いた二十三名の方々には、コーヒーを飲んで暫し御

歓談いただきました。クラブ側はクローズドにはしないとの事であったが、雨だけにとどまらず突風のような風が吹いて来た

ので、支配人と交渉を重ね、キャンセル料なしで、また、ご集合頂いた皆様方のご了解も得ながら、第二十三回は六月十日に順延することに決定しました

(山本 保 記)

東京陵水会囲碁会便り

東京陵水会囲碁大会今年度第一回が六月二十八日(土)に全国情報サービス産業厚生年金会館で開催されました。

今回は十八名の参加で、高段者、低段者の二班に分かれ、四回戦のスイス方式による戦績で行いました。熱い戦いが繰り広げられ次の通りの成績となりました。

A組
優勝…畠山嘉生六・五段(大10)

二位…三井照次六段(大10)

三位…神崎栄次六段(大3)

B組

優勝…高木巖初段(大7)

二位…吉原悟一四・五段(大9)
三位…刀祢信雄四・五段(大8)でした。

今回は小口晃氏(大14)が初参加され、若い棋士がより多く参加してもらええることを期待しています。

大会終了後、表彰式、懇親会と移り、遅くまで戦績を振り返りながら、和気あいあいに語りながら、大会を終了しました。次回は十二月に予定しています。

(三井照次 記)

東京陵水大志会

(大学四回卒会)

福島吉治君「〇八年春の叙勲
旭日中綬章 受章」祝賀会

二〇〇八年五月二十九日 於
新橋 隠れ居着家 わびさび

去る四月二十九日付で発表された〇八年春の叙勲で、福島君が長年の証券、投資信託業界に於いての顕著な功績により、「旭日中綬章」を受章されました。

大志会は大学四回をもじった東京地区同期の親睦会で、〇六年に故人となった理研計器社長の中島義男君を会長に二十年余、年二〜三回新宿「雅」にて

酒食を共にしてきましたが、現在も年二回の親睦会を継続しています。

今回福島君の祝賀会を兼ねた例会を標記の次第で開催しました。当日は十五名が出席、祝いの品として拙作ですが、三輪壽雪風の「鬼萩茶碗 銘 白寿」

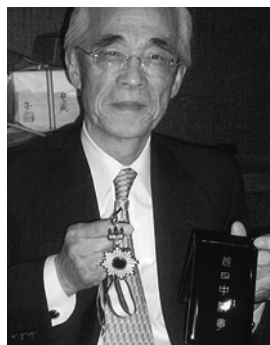
に近江ゆかりの「叶匠寿庵の祝菓」を差し上げ、更に東京陵水支部からの「祝花」を贈呈、十一名が祝意のメッセージを託して開会、美味の料理と酒で楽しく盛り上がった時間を一杯に過ごしました。この二年間に、中島、池田、原沢と相次いで仲間を失いましたが、福島君は現在も「F&Kコンサルティング会長」と現役で活動、他の多くは悠々自適、多彩な趣味、ゴルフなどで元氣ですが、僅かながら闘病中のももあり、互いの、仲間の近況などを交換し、次回十一月下旬を約してお開きとしました。

今回の参加者 青山松太郎、磯村元史、粕淵健三、北川享、佐々次郎、竹内鋭二、竹崎寛、谷文夫、西岡隆夫、箸方海三、松岡正曜、箕島安夫、山中英一、山本健夫、

欠席ながら祝いの参加者 今井常清、巖西俊彦、栗本雅夫、酒

井郁郎、杉山武、関岡利明、辻昇平、寺田又三、原淳男、福本俊昭、安江郁夫。以上

(幹事 箸方海三 記)



福島吉治氏



祝賀会の皆さん



祝品「鬼萩茶碗 白寿」

東京五陵会(大5同期会) 春の山登り定例会

今年も春の山登り定例会を五月二十二、二十三日に行った。行く先は榛名富士、榛名湖巡り。伊香保温泉泊とした。

参加者は十人。行きは新幹線組五人、車組四人。ホテル直行組と三グループに別れた。新幹線組は高崎駅着九時五分、同駅前に集合。九時三十分発の榛名湖行きバスに乗車。ウィークデーの割に混んでいたが高崎経済大の学生が多かったせいだろう。大学前で大半が降りてガラとなった。しばらくは何の変哲もない田舎道を走る。一時間も走っただろうか、バスはほとんど山登りを始める。九十九折の坂道は五月の新緑で眩しい。緑のシャワーを浴びているようだ。すると突然木々の間から大きな湖と対岸の山々が現れる「こんな高い処にこんな大きな湖が」と一同感動する。

出発から約九十分で榛名湖畔バス停に到着した。標高千九十九メートルである。湖の向こう岸には榛名富士がその美しい佇いを見せてくれている。休むことなくバス停からロープウェイ乗車口まで湖畔の道を歩く。約三



十分、ここで車組と合流する。付近にはレンゲツツジや遅咲きの山桜等があちこちに見られ心をなごませてくれる。二両連結式のゴンドラに乗る。ゴンドラは標高差三百メートルを、あつという間に山頂駅に届けてくれる。下車後階段道を少し上ると山頂に鎮座します富士浅間神社に着く。(標高千三百九十メートル)。天気はいいが遠くはガスがかかっているため眺望はいまひとつよくなかった。残念。しばらく休み再びゴンドラで下山する。湖畔まで歩きキャンプ場で昼食とした。キャンプ場には大勢の中学生がいくつものグループに別れて食事を楽しんでいた。晴天に恵まれ、温度も低く、湖面は波もなく、まさに一幅の絵画の中にいるようで気分は最高だった。食後は湖畔の道を一周することにした。深い

緑に包まれた湖畔の道は、すがすがしく快適だった。空気も美味しく、皆すっきりリフレッシュできた。しかし思った以上に距離が長く、二、三回休息をとったが少々足が疲れた。一周も終わる頃ようやく「湖畔の宿記念公園」にたどり着いた。懐かしい「湖畔の宿」のメロディに聞き入りながら公園を散策する。作詞家佐藤惣之助は、この地でこの歌の歌詞を書いたようだ。

バス停に戻り伊香保温泉行きを急いだ。山を下り二〜三十分ほどで本日の宿「和心の宿オーモリ」に着いた。早速このホテルの名物となっている屋上露天風呂に入り汗を流す。風呂は八階の屋上にあるだけに眺望がよく、近くの上州の山々から季節の風情を感じることができ、正に大自然に浸る趣であった。空気の澄んだ日は谷川連峰から赤城のすそ野まで望む事が出来るようだ。ゆつくり今日の疲れをとって部屋に戻り、一同冷たいビールで乾杯。至福のひとつきであった。六時半宴会。皆今日の旅を思い出しながら話は弾み、緑のシャワーの醍醐味に感謝の声しきりであった。そしてこの旅を企画、世話をしてくれ

た幹事の龍口君にお礼の声とともに来年もまたいい処をとお願いした。

翌朝はホテル差し回しのガイドさんの案内で温泉街を回った。坂と石段の街だけに歩くのも大変だったけど、御用邸跡(現在は群馬大学保養所)、伊香保神社、河鹿橋飲泉所、露天風呂、橋本ホテル、湯元源泉地、三百六十段の石段街等を廻った。伊香保温泉の古い歴史と街の奥深さに今更ながら感心した。ホテル前で解散となったが、また来年の再会を約し別れた。鉄道組はJR渋川駅から、車組はホテル前からそれぞれ帰途に就いた。

(鉄道組) 青島弘、天田志郎、市木敏弘、龍口秀夫、久木義雄、細井恭一。

(車組) 中川郁三、中西三一、樋上泰功、間宮昌蔵。

(大5 細井恭一 記)

大学十八回卒 同期会開催

大学十八回卒同期会を四月十八日東京駅名店街「ニュートキョー・旬さがみ」にて開催しました。東京支部平成十八年総会の運営を我々大学第十八回卒業生(昭和四十五年卒業)が当

番幹事として担当することをきっかけとして、同期が集まろうという事になりました。毎年四月一八日に開催するという取決めがなされ、今年も十四名の懐かしい顔ぶれが集まりました(参加者名は後述)。当初六名からスタートした会も年々参加者が増えています。近況報告を一人ずつ行いました。一巡する頃には程よくお酒もまわり、四十年前の彦根某所での酒宴と同じ状況が再現されていました。機会があれば同期で会おうという事から、ゴルフ会の計画や、昼食会の計画など色んなアイデアが出て今後益々楽しい同期会になりそうです。岡本君の発案でまず、国会見学と衆議院内食堂で食事の会を五月十九日に開催しました。

同期会参加者は以下のとおり(敬称略)。

今津松男 岡田憲治 岡本文夫
小倉好博 影山哲也 兼松泰男
杉浦理介 千葉 茂 徳山秀雄
中村嘉秀 西川清悟 前野悦夫
村瀬尚文 吉村政彦
国会見学参加者は以下のとおり(敬称略)。
岡田憲治 岡本文夫 小倉好博
影山哲也 小梶清司 吉村政彦

六月七日(土)、彦根市松原の彦根プリンスホテルにおいて、第二十四回白杉会が開かれた。今年は一〇〇八年であるので、従来からの申し送りで大学八回卒が当番幹事を担当した。白杉庄一郎先生のご長男で、甲南大学名誉教授の白杉剛氏を昨年に引き続き来賓としてお迎えした。

白杉庄一郎先生にゼミナールで指導を受けた滋賀大学学生は、経専二十二回卒から大学九回卒までで現在生存者が百四十七名を数えるが、今回の出席は二十五名(東京支部からは三名)と、年次によっては出席者無し

第二十四回 白杉会の開催

(大18 中村嘉秀 記)



当日は、午前十一時半から「目もはろばろ」と広がった琵琶湖を背景に、会場ホテルの庭園での記念撮影を皮切りに賑やかに会が開始された。司会を林史欣（大8）が当たり挨拶の後物故者へ一分間の黙祷を捧げた。当番幹事を代表して小塩正長氏（大8）が開会の挨拶。大学の図書館長に就かれたころの白杉先生の所感を紹介、先生の思い出の一端を語った。

白杉剛名誉教授から、御父上の思い出、生存されていたら更におすすみになられたであろうシユンペーターなどいわゆる近代経済学研究プログラムについてのお話があった。

懇親会に先立ってフルートの演奏をアトラクションに設けた。井伊亮子さん（井伊直愛元彦根市長のお孫さん）、吉岡由美さんの愛知県立芸術大学出身のデュオで「浜辺の歌」など名曲を数曲演奏。その後伴奏で偲聖寮寮歌、滋賀大学学歌を全員で懐かしく唱和した。

乾杯の杯を奥居重彦氏（大2）が挙げられ宴が始まり、その進行の中で各年次の代表が次々と白杉先生の思い出、エピソード、自分の現況などを語った。代表者に続いて同じ年次の会員が



飛び入りで発言したりで、宴の盛り上がりを見せた。特に先生が常に述べられていた「働く者の立場に立つて考え発言することが大切」の言葉はどの年次にも浸透し、発言者は皆その言葉を口にしていたのが印象的であった。

閉会の辞を伊藤英夫氏（大8）が担当。去りたい別れの時間は午後三時に近くなっていた。

（大8 林 史欣 記）

平成二十年度

有田会開催さる

去る六月十四・十五の両日、平成二十年度の有田ゼミの会（有田会・代表幹事第六回卒沓

名敏郎氏）が開かれました。有田会は昭和三十年代半ばから毎年欠かさず開催されており有田正三先生が平成十六年に亡くなられた後も続いています。今年には愛知県の三河安城シティホテルが会場で出席者は三十五名でした。十七回卒の内山昭立命館大学教授の講演、きれいどころをたくさんそろえた懇親会、カラオケ、そして有志は車を連ねてクラブへ繰り出すなど、楽しい歓談の一夜をともにしました。また翌日は日本のデンマークといわれるこの地域を象徴する「安城デンパーク」、当地出身の石川丈山の記念公園を散策してゆったりとした時間を過ごし、来年度関東地区での開催を約して午後解散しました。

（大13・近藤達也 記）



彦根コンフィデンシャル

滋大陵水新聞会

本学は下宿生が六割程度と多いように思う。通学が不便という理由だけではないようだ。大学直通バスも運行していることもあり、遠方からでも通いやすいように工夫がされている。しかし、実際には交通機関の関係から通学が困難な学生も多々おり、通学から下宿へと切り替える場合も少なくない。

下宿も間借りをする「下宿」は少なくなり、「下宿」は「一人暮らし」や寮生活を意味するようになりはじめています。

一人暮らしには生活費が必要である。その大半は保護者からの仕送りなどの援助で生活している。また奨学金などを利用している学生も少なくはなく、そのための告知も学内掲示板でされており学生にとっては情報を得やすい環境だろう。しかし実際にには娯楽費や課外活動など自分自身の都合から必要になる費用は自分で賄わなければならない、生活費にあてるためにアルバイトをするケースが多い。

一人暮らしの学生は大学周辺に住む場合がほとんどで、特に多いのは彦根西高校前の通り、芹川以南の「ベルロード」沿い

彦根での生活のしやすさは徐々に向上している。数年前から学校周辺に大型ショッピングセンターや夜まで営業する薬局があることで、特に学校周辺に住んでいる学生は非常に生活がしやすくなった。また南彦根駅に近づくほど新しい飲食店やスーパーマーケットも開店し始めているため、少し足を伸ばせば日常生活に事足りる。

食事は生活費の節約のため自炊が基本である。しかし、学業

や課外活動に追われていくうちに困難になり、アルバイト先のまかないや外食が増えていくケースが多い。

町の施設はあまり利用されていない。近年はインターネットや携帯電話の普及から自宅でも様々な情報取得や役所への届け出が可能であり、かつては使用頻度が高かった図書館等の利用者も減っている。

一人暮らしでは何事も自分で解決しなければならないことが多い。病気にかかった場合は自分で病院や薬局へ行き対処せねばならない。物騒なこともあり、アパート先へ不審者が訪ねて来る場合もある。穏やかな彦根といえども一人でいることは決して安全ではなく、防犯に注意しなければならない。相談や通報といった手段があるが、その場の判断が一番重要になる。たった一人であるがゆえの心配や不安が増える。

学生にとって彦根はアミューズメントが少ないように思える。以前ならば琵琶湖で自然を楽しむ、彦根城という文化財を満喫したかも知れない。しかし、いくら自然を満喫しても、都市部と比べて全体的に物足りないように感じているようだ。市外

へ行く手段もあまりなく、都市部へ出向くと遠方になり費用もかかってしまう。彦根は学業に専念するには十分だが、新鮮味が失われ生活が「単調」を悩みに感じてしまう原因にも繋がってしまう。

偲聖寮もかつての「下宿」のイメージに近いものになった。ただ風呂場のような共有スペースが多いうえ、隣部屋との距離が近いので一人暮らしより親密になりやすい。さらに寮では年を通して各種の行事があり、年齢の隔てなく、大学内に留まらない交流ができる場がある。学生時代の思い出となるような体験が多くできる。行動的な人もいる。アルバイトや部活などの個々の事情で帰って来ない人もいる。寮の立地が湖畔であるため眺めが良く、彦根で夏に行われる花火大会では花火が特に綺麗に見える。

寮には各回生から選ばれた寮委員で構成された寮委員会あり、それが自治会となっている。寮は共同生活の場であるため自分勝手ばかりをしていては生活できなくなってしまう。「自分の仕事を割当通りに行っていくことが自然と寮における自治に

なっている」と語る寮生。自治を行っていくために大きく貢献

寮の最大のメリットは生活費が安いこと。一人暮らしは十万近く費用がかさむ。寮は寮費に諸費用を合わせても一万円。寮母さんもいて安全だ。

偲聖寮は湖岸に移転した。数年前の改装時に全室が個室になり、食堂が女子寮になった。そのため食堂が無く、補食室という調理場とテーブルが設置された場所です食事するようになった。百人以上が入寮する男子寮と三十人前後が入寮している女子寮では雰囲気も少し違いが見られ、女子寮の方が落ち着いた雰囲気になっている。食堂がなくなったことで寮生も自炊をするようになった。学校周辺の大型ショッピングセンターの他に寮の前には二十四時間営業のコンビニエンスストアができ、生活が非常に便利になった。遠い銀行まで行かなくともATMも使用できるようになった。

通学手段には自転車が多い。原付やバイクも増加している。また近年は留学生の入寮も増えており、日本人の入寮が限られてきている。寮全体の雰囲気も、近年は緩やかな傾向にある。(滋賀大陵水新聞会・太田志織)

平成二十年度年会費納入者

(六月末日現在)

松居敏郎	山上敏夫 (本11)	田岡譲一	竹内鋭二	谷文夫
初田修 (本12)	船見祐治	辻昇平	西岡隆夫	樋上不二
(本15)	小林赴夫 (本17)	山子	寺田又三	箸方海三
廣新	佐野志郎 (本18)	石士郎	松岡正曜	簗島安夫
田定夫	小林満男	高木克幸	中英一	磯村元史 (大4)
(本19)	葛上宗一郎	田波隆興	田志郎	飯島勲
辻暢夫	山成軒六 (本20)	岡田和義	神谷亨	龍口秀夫
井口博民	犬塚昌一	梅沢誠質	中川郁三	樋上泰功
河添治男	竹内政太郎	土田	細井恭一	間宮昌蔵 (大5)
茂	豊田弘毅	鳥居和也	樋口	青木茂
廣太郎	中辻喜蔵 (本21)	高	大久保義雄	大谷毅丈夫
山義雄	多賀芳則	辻雅仁	一郎	岡田亨
寺本康郎	丹羽鑛治	橋本侃	村和男	草生知治
林輝治	山口昭夫 (本22)	高橋秀治	中村博一	橋本長夫
瀬川泰助	西尾實	西田延弘	林謙治郎	久木義雄
前川彌之祐	松本義	吉田光	(大6)	磯部一郎
雄 (本23)	大竹德行	岡田浩	市川浩久	宇治原嘉政
加納淳司	楠田迪彦	高木早苗	浦谷政夫	木下実
西澤正	保正保 (本24)	奥	鈴木重成	富永義孝
村忠雄 (東1)	井上泰一 (東4)	東野和弘	山本芳三 (大7)	
川瀬孝太郎	加藤福志 (東5)	天木清次	池田弘孝	小塩正長
落合忠一 (別11)	小野盛四郎	尾本政二	大島明美	瀧川雅一
外江龍太郎 (工2)	井上祐一	刀祢館信雄	浜崎守三	林史
川本茂	小池英夫	渡辺貞二	欣	松岡健雄
(大1)	乾哲彦	岡田巖	芳秋 (大8)	小野浩
亀井潤吉	郷治雄	柴田茂夫	部百也	坂田忠彦
新宮毅	刀襦館治男	宮崎	中川和己	中島勝司
正	水引芳雄	四塚行雄	渡辺	西田広彦
陽彦	澤井良治 (大2)	田中	藤江忠正	藤本裕一郎
博	神崎栄次	小八木俊雄	増	徳山本孝之
田茂樹	吉村恒	用田政一 (大	弘	吉原悟一 (大9)

隆 白井 健 小塩 守 佐藤 中村嘉秀 村瀬尚文 栗原喜代 戸知章悟 北川昌樹(大38)	秀孝 田中俊男 坪田清六 中 次 小梶清司 杉浦理介(大 立木賢一(大40)、山本雅由	川寿一 中沢龍彦 中村寿男 18)、門平孝二郎 竹森二郎 (大42)、高田大樹(大49)、中 島幸一郎 平 大輔(大51)、	服部全孝 細谷 隆 三井照次 寺井与利雄 戸田保延 中村達 蔭山二郎(大53)、肥田茂之	山田進 山本啓司(大10)、川 夫 宮川 誠 和田博之(大 (大54) 戸田有香(大55)、久保	北直行 川合久嗣 関 恵文 19)、稲本正博 大八木勉 長 田裕宣 杉田佳代子 松村崇史	野一色公平 松浦紀久雄 小林 ケ部良一 蔵 彰 後藤裕子 (大56) 北沢勝太郎(短5) 日	貞夫(大11)、稲邑明也 奥村 田中二郎 角田健一 藤井 賢 高信次(短9) 島 康介(院)	啓一 小原捷治 守谷貞夫 田 松尾秀昭 松山 仁 皆川則雄	村寿夫 角田孝司 平居俊雄 上田 求 植田兼司 小野 学	堀内 和 堀川幸夫 宮野幸雄 河原正喜 岸岡真人 平井善三 ●平成十九年度年会費納入者	(大12)、朝比奈冬男 内川晃廣 福原 隆 (大20)、石川公一 (平成二十年一月四日以降。太	小林三郎 近藤達也 中村奎吾 射場茂喜 植野克美 川嶋正隆 字は複数年分納入された会員)	星出 潔 溝口次朗 若山 忠 細井富雄 米山 修 脇坂 守 早藤泰二(本18)、藤見 隆	(大13)、天木國夫 安部 誠 吉田富美男(大21)、西田真介 (本22)、小野盛四郎(工2)、	白井和宣 小口 晃 葛山 薫 小林忠志 山脇一泰(大22)、 増田捨四郎(大1)、神谷 誠	加藤博善 古山捷二郎 清水 稲波信一(大23)、徳山 均 矢野 昭(大3)、磯村元史	叡 土井健一郎 中村 弘 野 湧川勝巳 仙田修蔵 河江泰平 (大4)、竹内伴道(大5)、山	村英機 古川浩司 吉井幹雄 (大24)、安井喜重(大25)、高 本芳三(大7)、池田弘孝(大	(大14)、穂山祥夫 木下英男 瀬 豊 近森彦義 重田 博 8)、藤江忠正(大9)、長谷村	鈴木 勝 柘野茂樹 富田博司 (大26)、川 寄信二 木戸博文 秀夫(大11)、堀内 和(大12)、	細江謨夫 馬島惟安 山本 保 (大27)、岡野茂樹 辰農雅司 高橋勝彦 名口幸夫(大14)、	吉田勇夫 鶴見芳令 長嶺英則 馬場敬夫 吉永純明(大28)、 黒田悦司 早川英勝(大15)、	黒田悦司 中尾克也 中沢武昭 浅見 徹 上田信子 西田昌司 柘 治三 中川瓊一(大17)、	藤本幸延 前田哲顕(大15)、 (大29)、磯野和也 和田昌信 小倉好博 村瀬尚文 小梶清司	木津勝治 木戸 彪 熊谷正和 浅野卓也 中村浩一 武田吉史 (大18)、中村達夫(大19)、上	佐藤充宏 浜口栄治 渡辺雅利 (大30)、黒岩征一郎 杉野雅哉 野恵三(大20)、射場茂喜 山	進 従道(大16)、岡本和之 谷口次呂(大31)、小林智子 下修司(大21)、深谷靖純(大	川崎憲夫 蔵田昭憲 栗林 昭 酒井康就 岩田雄一 中井光 23)、大山 明(大24)、西尾治	柴原良昭 西尾郁夫 越後和斉 治 東 徹(大32)、清塚 徳 作(大30)、竜野寿男 岩田雄	滋野輝彦 中川瓊一(大17)、 西野忠宏(大33)、岡武俊雄 一(大32)、岡田陽一(大33)、	山岡隆治 岡本文夫 小倉好博 (大34)、西上雅之 川村憲司 松澤 進(大38)、坪内芳朗	影山哲也 田中和夫 徳山秀雄 吉村栄祐(大37)、大原孝明 (大40)、廣田 豊(大47)。
--	---	--	--	--	--	--	--	-------------------------------	------------------------------	---	---	--	--	--	---	--	---	--	---	--	--	--	---	--	---	---	---	--	--	--	---	--

編
集
所
感
室

「会報」原稿・情報ご送付先

陵水会東京支部
ホームページアドレス
<http://www2.ocn.ne.jp/~ryousuit/>

林史欣（大8回）

$$\begin{array}{c} \overline{\text{T}} \\ 1 \\ 6 \\ 4 \\ | \\ 0 \\ 0 \\ 1 \\ 4 \end{array}$$

中野区南台二一五—一〇

(TEL・FAXとも)

〇三—三三八—四四三

※編集室のメールアドレスは

hysckys@nifty.com

(次号分メ切日十月末日)

發行所

$$\begin{array}{c} \overline{2} \\ 2 \\ 3 \\ 6 \\ | \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 4 \end{array}$$

横浜市金沢区福浦 1 | 14 | 9

守谷輸送機工業(株)内

陸水会東京支部 支部長 西坊徹雄

胃腸 (45) (785) 3716

白
屈
序

東京部台東区東上野

船舶印刷(株)

電話 03-(3831)4181